

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400317
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム昴星
所在地	西予市城川町下相693番地
自己評価作成日	平成 24 年 1 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の思いや、その時の状況を把握して柔軟な対応に努めています。また気軽に訪ねてきていただけるように、雰囲気作りにも心がけています。人生の大先輩に接する時、尊敬や恐れなどにも似たものを感じることがあります。一人ひとりの方々に適した個別的な対応を心がけ、職員も家族や自分も最後はここで暮らしたいと思えるような施設作りを考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から勤務している職員も多く、より一層のケアの質の向上のため資格取得に積極的に取り組んでいる。管理者や職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守り、今までの生活習慣や思いを大切にしながら笑顔で寄り添うケアを実践している。看護職員が配置され日々の利用者の健康管理等を行っており、医療との連携体制が整えられ、安らかな終末期を迎えられるよう看取りも行っている。管理者や職員は、利用者にとってより良い事業所になるよう力を合わせて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム昴星

(ユニット名) 第1ユニット

記入者(管理者)

氏名 高田 富美

評価完了日 24年 1月 8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で、理念を共有し実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 地域とのつながりや利用者の思いを大切に、「私達は家族である」という視点で作成され、職員全員で共有している。理念をもとに事業所の毎年の目標や職員個人の具体的な目標を立て日常のケアが充実するよう取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地元の総会や常会に参加し、事業所事態が地域の一員として交流している。地域の広報や新聞の提供もあり、利用者も今までの暮らしが出来ている。</p> <p>(外部評価) 地域の祭りや行事に積極的に参加したり、中学生の福祉体験学習の受け入れ、学校行事にも招待されている。事業所の納涼祭には多くの地域の方やボランティアの参加もあり、にぎやかな行事のひとつとなっている。今年からは地域の方に案内状を配布し、介護教室を定期的を開催する予定である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 小・中学校の研修生を受け入れ、認知症の人の理解や接し方を学ぶ機会にしている。また地域の人への介護教室を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 他事業所を招いての運営推進会議を行い、意見交換や話し合いをして、サービスの向上に生かしている。	
			(外部評価) 事業所の行事や避難訓練の時に運営推進会議を合わせて行うなど、参加してもらいやすいよう工夫をしている。参加者や地域の方に事業所の日常を見てもらい、積極的に関わって活発な意見交換が行えるよう取り組んでいる。	消防や警察等にも積極的に参加を呼びかけ、事業所の様子を知ってもらうようさらなる取組みを望みたい。また、様々な立場の方との意見交換をすることにより、認知症についての理解を深めてもらい、より一層、利用者へのサービスの質が向上するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 精神病の利用者についての苦情が市町村に上がり、実施指導が入った。精神科へは主治医の要望どおりに職員が出向き、服薬状況や、効き具合を報告・相談に行っている。市町村からの指導や・改善には真摯に取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者は、運営推進会議に毎回出席している。利用者の困難事例の相談や援助方法について連絡し合う等、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状態が段々と重度化している。日中よりも夜間の大変さがあるが、現段階では危険なことも頻回の見守りや付き添い介助で対応している。	
			(外部評価) 職員全員が身体拘束について理解した上で見守りの方法を徹底し、安全面に配慮しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。声かけについては抑圧感を与えないように入居時に利用者や家族に名前の呼び方を確認し、不快な思いをさせないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 痣や傷などを見過ごすことがないように、また、見つけたときは何時の時点で起こったのか追求している。どのような理由でそのようになった突き止めることで、介護技術が高まり虐待の防止に役立つと考えられる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今月末にはホーム内で勉強会を開催する。学ぶ機会を逃さないようにする必要があると考えている。現在は対象者がいないが、その必要がある時には、さらに勉強会を開き活用できるようにしていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、詳細にわたっての説明を行う。事前に見学に来られた時なども利用し、不安がないように疑問点を尋ね、十分な説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の意見は来訪時や家族会で聞き、ホームの運営に反映させている。苦情相談窓口は、内部・外部ともに文書に明記し、家族にも説明している。ためらいや遠慮から意見が出ないなどということがないように、運営推進会議での場や、介護相談員の訪問時に話せる機会を設けている。 (外部評価) 年に2回、花見や納涼祭と合わせて家族会を開催し、気軽に意見や要望が言いやすいよう工夫をしている。普段の生活の様子を写真入りで掲載している事業所の新聞を月に1回家族に配布しており、電話連絡も頻繁に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月総務での管理者会議があり、その場で各事業所からのさまざまな問題点や話し合いが持たれる。それらの問題を持ち帰り同月各施設でも会議がある。2・3階の職員全員参加で情報を共有し、その場で自由に発言や意見交換が出来る。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの職員が多く、ケアに対する提案や意見も積極的に出され、毎月よりよい事業所を目指しての話し合いが行われている。管理者は職員の質の向上を意識しており、職員も学びの姿勢を持ってケアに取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格手当や職務手当などで、個人の役割などを把握できている。時間外手当やいい</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修の情報を知らせ、希望者が参加できる機会を作っている。外部・内部研修に参加した場合は、受講内容を他の職員にも伝えている。ホーム内では、単発的に勉強会を行い、学ぶ機会を作っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同業者との事例検討会や、ケアプラン作成について勉強会を行っている。また、職員育成の面でも管理者同士の悩み打ち明けたり、相談をする(受ける)などしている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査時に、本人・家族の話を十分に聞くようにしている。入居されるまでに家族関係や生活暦等を聞き、信頼関係を構築できるように何度も話せる機会を作っている。本人の心配事が何かを聴き、安心できるような声かけを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査時に、本人・家族の話を十分に聞くようにしている。入居されるまでに家族関係や生活暦等を聞き、信頼関係を構築できるように何度も話せる機会を作っている。入居前にホームの見学を行い、生活する上での不安を少しでも払拭できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 介護保険を使っての他サービスは行えないが、施設内では生活リハビリや、食事の形態など出来る限り支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と一緒に散歩したり、リハビリ体操、洗濯物の世話、料理食後の片付けなど沢山のことを一緒にを行い、やさしさを学んでいる。人生の先輩と尊敬しながら、労わりの気持ちを持ってケアに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人・家族の訴えを十分に聞き、共感し、ともに支えあう関係作りをしている。毎日来られる家族もあり、良い関係が築けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族、近所の方や住職さん、親戚の方々など多くの方の関係が継続できている。デイサービスでの交流も少しある。また懐かしい場所や、自宅や墓参りなどの支援もしている。  (外部評価) 管理者は入居前に自宅訪問を行い、今までの生活習慣や地域とのつながりを把握するよう努めている。馴染みの場所への外出を積極的に行うように心がけている。行事はデイサービスの利用者と共にすることもあり、様々な人とのつながりを大切に支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 生活リハビリやレクリエーションで、一緒に楽しむようにしている。難聴者が多く利用者同士の会話が成立しないことも多くある。職員が媒介者となり、楽しく生活できるようにしたい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後もイベントのご報告はさせていただいている。入院された利用者の家族から空き状況を聞かれることもある。相談・支援に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 寄り添うケアを中心に、個性を活かした生活を営めるように、生活リズムを大切に考えケアを目指している。意思の疎通が困難な利用者に対しては、笑顔や、表情で判断し出来る限り穏やかな生活が営めるように支援している。思いが叶うように心がけている。 (外部評価) 入居前に自宅を訪問したり、家族から聞き取りをする等思いや希望を把握し、思いに沿うことができるような支援を心がけている。日々の生活の中で利用者の行動や表情からも意向や要望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 担当ケアマネや、事前訪問、本人・家族との関わりで出来ている。入居されてからは、その後の会話や行動で分かることもある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の持てる力を十分に発揮できるように支援している。表出される表情で無理と思えることや、嫌そうなことは無理にお願いせず、他に出来ることはないかなど声かけする。今の力や、精神状態の把握をする。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回にケアカンファレンスを開催し、意見を述べ、情報交換をしそれを共有している。身体拘束になることや危険が及ばないようにアイデアを出し合っている。また時には家族にも加わってもらい、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 月1回のカンファレンスで課題やケアの実践状況について話し合いを行っている。介護計画に変更があった時には家族や利用者の確認を取るようになっている。日頃から家族や利用者の思いや意見を聞いて計画に反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録に要する時間の長さに矛盾を感じていた。介護記録記録用紙を改善して、少しは時間短縮が図れ、利用者とのかかわりが増えた。介護記録・業務日誌・利用者個別の申し送りノートを用いている。勤務交代時に申し送りを行情報の共有をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 買い物、自宅へ帰る、受診介助(精神科、皮膚・泌尿器科、歯科、総合病院)などの外出支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 演芸ボランティアにより楽しみを持ちながら豊かに暮らしている。大雨や洪水等の施設内災害に対し消防団などの協力を得て安全な生活が営めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 希望するかかりつけ医師の診察ができるように、受診 介助は行っている。また病状により本人・家族の希望 する病院で受診できるように職員の付き添い介助を 行っている。</p> <p>(外部評価) 2週間に1回の主治医の定期的な往診や、各ユニット にいる看護職員により日頃の健康管理や緊急時の病院 との連携が行われている。利用者や家族が希望する専 門医の受診の支援も行っており、結果については細か く家族へ報告を行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 各ユニットに看護師を配置している。日常の小さな変 化も見逃さないように、介護職員からの報告を受けて いる。また医療連携病院の看護師に聞くことも度々あ る。利用者に適切に受診や看護が受けられるように、 連携し支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院された場合、頻回に面会に行き安心されるよう にしている。医療機関との情報交換により早期に退院 できるように連携を取っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に本人・家族の意向を聞き、医療連携体制の同 意を得ている。独自の緊急時対応希望書を記入してい ただいているが、最終的なものではなく現在の希望を 大まかに把握している。運営推進会議などでも取り入 れるべきと考えている。</p> <p>(外部評価) 入居時に利用者と家族の意向を確認しながら終末期ケ アを行っている。重度化及び看取りについての指針も 整備され、医療機関との連携体制が構築されている。 利用者や家族の意向を随時確認しながら、安らかな終 末期が迎えられるよう関係者全員で支援に取り組んで いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時に備えての訓練は、頻回に行わなければ対応できないと考える。実践力を身に付けるため、殆んど全員が消防での救急救命講習を受けている。(新風会の行事として研修を行った。)その他の消防の避難訓練は定期的に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 山からの水害や洪水に対して、職員が待機するなどして対応した。地元の消防団も緊急時には忙しく対応が困難な時もある。その時は公休の職員も出勤しその場に対応している。今後も訓練を行いたい。今後も近隣の住民や消防団との協力体制を崩さないようお願いする。 (外部評価) 消防署員の指導のもとで全職員で地震や夜間想定避難訓練を実施している。避難訓練と運営推進会議を合わせて行い、地域の方にも避難訓練の様子を見てもらい災害時の協力体制について話し合っている。	備品や居室内の安全性を災害を意識しながら再度確認するよう望みたい。また、事業所の周りの環境等から想定される災害に対応するために、地域の方とのさらなる協力体制の強化に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自室での着替えや排泄に配慮し、ベッド脇にカーテンを設置している。記録等が他人の目に触れないように個人情報保護に配慮し、スチール戸棚に入れている。呼び名に関しては、入居時に家族・本人と話し合い適切な名前と呼んでいる。的外れな回答や返事でも、笑ったりすることのないように気をつけている。 (外部評価) 場所や状況に応じた声かけや対応に努め、利用者の人権やプライバシーを尊重している。慣れ合いになってしまわないよう注意しながら日々のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いを表出できるように、わかる力に応じた説明をしている。自己決定できない場合は十分に時間をとり、選択肢を設け表情などで判断することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や朝食時間はその人のペースで行い、一人ひとりのペースを大切にしている。一日を充実できるようにしたいことが出来る人にはその支援を行ない、出来ない人には希望を聞くなどしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族が美容院に連れて行かれる以外は、ほとんどの方が(家族を含む)職員の散髪を希望されている。何を着ればよいかわからない方には選択できるように何点かの中から選んでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人の誕生日には希望のものを取り入れている。野菜をふんだんに取り入れた料理をして、高齢者の好きな献立を立てている。準備や配膳、片付けなどできることは職員と一緒にしている。 (外部評価) 事業所の畑で収穫した野菜等、旬の食材を取り入れた献立を職員が手づくりしている。採れた野菜をどのように調理するか、利用者の経験や好みを話題に楽しく会話をしている。味付けも利用者と一緒に作り、器にも工夫をする等、楽しく食事できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 言わなければ水分を摂取しない利用者もおられる。水分摂取の必要性や大切さを話し、確保できるようにしている。便秘や糖尿病などの入居者もあり、状態の把握をして適切に支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを説いても、理解できない方や面倒くさがる方もある。食後同行し、終わるのを見届けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 生活のパターンを見ながら、本人の様子で誘導を行うなどしている。食事の前後や、起床時、就寝前などは声をかけるなどしている。	
			(外部評価) 利用者の状況に応じてオムツ等を使用しているが、可能な限りトイレで自然に排泄できるように支援している。誘導や介助の際は不快感を与えないように配慮しながら、過度なケアにならないよう支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の生活リハビリや、排便体操など動くことをしている。また水分の摂取や繊維質の食べ物など献立にも気を配っている。便秘症の人や下痢をしやすい人などさまざまなが、ヨーグルトなどをふんだんに食べていただいている。施設で収穫して野菜や芋を使った料理は好評である。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自ら「今日は入浴したい」と希望されることはないが、タイミングを見て入浴支援を行っている。重度化してきているために、二人介助での支援が多くなっている。その日の身体の状態を見極めた支援を行いたい。	
			(外部評価) 利用者からの希望があれば、毎日入浴できるよう準備をしている。入浴が苦手な利用者には、声かけのタイミングや対応を工夫して気持ち良く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自室では直ぐに目が覚め、昼夜逆転している方も家族の理解を得て、休める場所で休める時間をモットーにしている。日中炬燵で休まれることも多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 定期薬を受取ったら、夜勤の職員が1回分ずつビニール袋に分包する。その時に薬の目的、副作用、用法や容量についてより深く理解できる。各職員が関わることで誤薬・誤配がなくなった。日常の身体の変化にも機敏に気が付くようになった。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 今までの生活歴や、趣味などを活かした生活支援をしている。カラオケが好きだった方がそのことは忘れられているが、職員が誘導することで口ずさまれることがある。家事などは何でも教わる姿勢でお願いすると、よく教えていただく。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 役割を果たした後の散歩を楽しむ入居者もいる。散歩の途中で祠にお菓子を供え、お参りされることが日課になっている。家族と協力できるときは花見や行事が多い。懐かしい場所や、自宅や墓参りなどの支援もしている。 (外部評価) 利用者の希望を聞きながら自宅やお墓参りなどの外出を行っている。外出が困難な利用者は事業所の庭で日光浴をしたり、お花見など計画し短時間でも屋外に出ることで気分転換や楽しみになるよう支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族との話し合いで、小銭を所持されている方がある。お金に対しての執着心の強い方や、収入がないことへの不安のある方には、家事をすることで収入になると申し上げ、喜んで役割を行われることがある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの電話の取次ぎや、こちらから家族にかける電話の支援は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂には日めくりを設置し、捲ることを利用者が朝の仕事にされている。職員が季節の花を持参し、洗面所や玄関に飾ってある。生活感や季節感のある居心地の良い共用空間を心がけている。	
			(外部評価) 高台にあるため、大きな窓からは自然豊かな景色を見渡すことができる。利用者は自然光の入る明るいリビングや、こたつのある畳スペースで、思い思いにゆったりと過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間に腰をかけ数名の利用者が会話を楽しまれたり、炬燵に入り、テレビを楽しまれる。また足の悪い方は、食卓の椅子に腰をかけ過ごされる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具のレイアウトや必要なものは本人・家族の希望されるものを相談し準備する。今まで使っていたものや、愛着のあるものや好みのものなども活かして居心地の良い生活が起これるように支援している。	
			(外部評価) 入居前の自宅訪問の際に感じとった雰囲気を参考にしながら、利用者の好みに合うよう、居心地よく過ごせる居室づくりをしている。ベッドやタンスが備え付けられ、自宅で使っていた日用品や家族や犬の写真等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者は、各自居室を構え自由に生活されている。廊下やトイレは手すりが設置され、安全に移動できる。廊下端しには椅子があり歩行中に休むことができる。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400317
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム昴星
所在地	西予市城川町下相693番地
自己評価作成日	平成 24 年 1 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の思いや、その時の状況を把握して柔軟な対応に努めています。また気軽に訪ねてきていただけるように、雰囲気作りにも心がけています。人生の大先輩に接する時、尊敬や恐れなどにも似たものを感じることがあります。一人ひとりの方々に適した個別的な対応を心がけ、職員も家族や自分も最後はここで暮らしたいと思えるような施設作りを考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から勤務している職員も多く、より一層のケアの質の向上のため資格取得に積極的に取り組んでいる。管理者や職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守り、今までの生活習慣や思いを大切にしながら笑顔で寄り添うケアを実践している。看護職員が配置され日々の利用者の健康管理等を行っており、医療との連携体制が整えられ、安らかな終末期を迎えられるよう看取りも行っている。管理者や職員は、利用者にとってより良い事業所になるよう力を合わせて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム昴星

(ユニット名) 第二ユニット

記入者(管理者)  
氏名 高橋 志万子

評価完了日 24年 1月 8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念の示す元、日々、サービス向上に向けて、職員全員が共有し、話の場を設け、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 地域とのつながりや利用者の思いを大切に、「私達は家族である」という視点で作成され、職員全員で共有している。理念をもとに事業所の毎年の目標や職員個人の具体的な目標を立て日常のケアが充実するよう取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 出来る限り地域との交流を持ち、広報等で情報を得たりする等、地域の日常的な交流も定着してきた様に思います。</p> <p>(外部評価) 地域の祭りや行事に積極的に参加したり、中学生の福祉体験学習の受け入れ、学校行事にも招待されている。事業所の納涼祭には多くの地域の方やボランティアの参加もあり、にぎやかな行事のひとつとなっている。今年からは地域の方に案内状を配布し、介護教室を定期的開催する予定である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症の理解を得る為に地域の方に集まって頂き勉強会を開催しました。又、文化祭、運動会、等に利用者や参加したり、祭りには鹿踊り、牛鬼と訪問して頂きました。中学生の体験学習などを通して支援の方法を活かしています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年、6回の運営推進会の中で、雑談を交えながら、率直な意見交換が出来ている。 会議だけの場ではなく、講演会などに会議メンバーが参加して、それをサービス向上に活かしていると思います。	
			(外部評価) 事業所の行事や避難訓練の時に運営推進会議を合わせて行うなど、参加してもらいやすいよう工夫をしている。参加者や地域の方に事業所の日常を見てもらい、積極的に関わって活発な意見交換が行えるよう取り組んでいる。	消防や警察等にも積極的に参加を呼びかけ、事業所の様子を知ってもらうようさらなる取組みを望みたい。また、様々な立場の方との意見交換をすることにより、認知症についての理解を深めてもらい、より一層、利用者へのサービスの質が向上するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者の訪問があり、現場の実情は伝えていきます。書類関係はこちらから出向いて指導をして頂いたり電話等で協力関係は出来ています。	
			(外部評価) 市担当者は、運営推進会議に毎回出席している。利用者の困難事例の相談や援助方法について連絡し合う等、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関にはチャイムが鳴る様にしてあるので鍵の拘束はありません。やむを得ず、一時的にベット柵をしていた時があり、家族に説明、同意を得て、改善策を職員全員で話し合い、二度とベット柵をしないケアに取り組んでいます。	
			(外部評価) 職員全員が身体拘束について理解した上で見守りの方法を徹底し、安全面に配慮しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。声かけについては抑圧感を与えないように入居時に利用者や家族に名前の呼び方を確認し、不快な思いをさせないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 暴力的な虐待はありません。言葉の虐待が出かねないので日々、利用者に対しての言葉に注意するように話し合いの場を設けています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について学ぶ機会が少ない様に思います。個々の必要性を家族さんと話し合う機会を設ける事が必要だと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明は十分に行っています。経済的な事情が発生した場合は、深刻な問題と受け止め家族と共に行政機関に相談を求め、利用者、家族を交え理解、納得を図っています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に利用者家族、利用者も出席して頂き意見交換をしたり、家族の要望は、ケアプランなどに取り入れ反映させています。	
			(外部評価) 年に2回、花見や納涼祭と合わせて家族会を開催し、気軽に意見や要望が言いやすいよう工夫をしている。普段の生活の様子を写真入りで掲載している事業所の新聞を月に1回家族に配布しており、電話連絡も頻繁に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員一人ひとりの意見を述べる会を持ち、業務カンファやケアカンファ、昼食時間等で十分に検討し、働く意欲や質の向上に活かしています。  (外部評価) 開設当初からの職員が多く、ケアに対する提案や意見も積極的に出され、毎月よりよい事業所を目指しての話し合いが行われている。管理者は職員の質の向上を意識しており、職員も学びの姿勢を持ってケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の給与水準は分かりかねるが、各自が研修、資格と積極的な向上心を持って、やりがいのある職場環境に努めています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階を踏まえた研修にも積極的に参加して、研修報告を発表する機会を設け、働きながら技術や知識も序々に身につけていると思います。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 役職が各事業所を訪問して、日頃の仕事の悩み、改善箇所等を意見交換して、連携を取ると共にサービスの質の向上に取り組んでいます。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査時に、ご本人に不安な事を尋ね、ケアカンファで話し合い、本人の伝えたい事に耳を傾け、少しでも不安が軽減する様に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の話をしっかりと聞き、本人と家族の考えを相互しながら、家族の気持ちを受け止めて信頼関係に努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要性を見極め、医療機関の眼科、歯医者等は本人、家族の希望に沿った対応をしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を通じて、出来る事を一緒にしたり、明るく話かけ、話をよく聞き、行動を把握して本人の発揮できる事を見い出すように日々努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアプラン作成の同意を得たり、文章を郵送する際に電話連絡をして、家族が疎遠にならない様に、本人と必ず話をして頂く様、家族の絆を大切にしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人、友人の面会の時は、ゆっくり話して頂く様に配慮しています。又、本人は、帰られた時点で、忘れられる事がありますので、写真などを一緒に撮り、本人に渡し、忘れてたり途切れる事がない様に努めています。  (外部評価) 管理者は入居前に自宅訪問を行い、今までの生活習慣や地域とのつながりを把握するよう努めている。馴染みの場所への外出を積極的に行うように心がけている。行事はデイサービスの利用者と共にすることもあり、様々な人とのつながりを大切に支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に洗濯物をたたんだり、食材の下拵えをして利用者同士で関わり合いが持てる場所を職員が提供して、支え合う様に支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 住み替えが必要になった場合は、必要に応じて相談に乗れますが、時間が経つと薄れていくのは事実です。相談があれば、関係性は大切にしていきたいと思っています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 時々、不穏状態になられる方がおられます。表情、体調を把握して、思いを知り、昼食の時間に話し合いをしています。意思疎通の出来ない人に対しては本人本位に検討しています。	
			(外部評価) 入居前に自宅を訪問したり、家族から聞き取りをする等思いや希望を把握し、思いに沿うことができるような支援を心がけている。日々の生活の中で利用者の行動や表情からも意向や要望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族が面会に見えた時などに生活歴を聞く様になっていますし、事前調査でも詳しく聞き把握しています。日々の生活の中で好きな物や食べ方などを話されることがあるので、役立てる様に心がけています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の過ごし方を観察して、事実の場面を捉え、有する力を見出す様にしています。(手が拘縮している人が腹を立てられると手が少し伸びたり、口腔ケアもハブラシを持って頂く事で、少し磨ける事が出来る。)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 設定期間ごとに見直し、職員の気づきや意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成しています。家族に電話連絡をして説明して同意を得ています。	
			(外部評価) 月1回のカンファレンスで課題やケアの実践状況について話し合いを行っている。介護計画に変更があった時には家族や利用者の確認を取るようになっている。日頃から家族や利用者の思いや意見を聞いて計画に反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、場面を個別記録に記入して申し送り等で職員間で情報を共有しています。(出来る・普通・良く出来た)等、結果に応じて実践や介護計画に活かしていますし、見直しもしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 多様なニーズが発生してくる中で、冷静に受け止め、時には臨機応変に受け止め、本人や家族の状況に応じた対応に取り組んでいます。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方が何度か訪問して頂いて、歌、踊りなどを楽しませて頂きました。学校の文化祭、音楽会は利用者と一緒楽しむ事が出来ました。今後も地域の人の輪に溶け込むように、参加できる事には参加したいと思います。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 家族の同意を得て、協力医療機関を主治医にしてい ます。2週間に1度の往診があります。眼科、歯科は家族 の希望を取り入れ、本人が納得される様に受診に同行 しています。</p> <p>(外部評価) 2週間に1回の主治医の定期的な往診や、各ユニット にいる看護職員により日頃の健康管理や緊急時の病院 との連携が行われている。利用者や家族が希望する専 門医の受診の支援も行っており、結果については細か く家族へ報告を行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 職場内に看護師がおり、小さな変化にいち早く対応で きている。看護師が主治医に伝えて受診出来ていま す。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医の判断で入院となる利用者もおられます。家族 に連絡をして同意して頂く事となります。その場合、 職員も付き添います。早期退院出来る様に情報提供書 を提出して連絡を密にしています。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りまで希望されて、入居されている利用者がほと んどです。再度、終末期の話し合いを十分に説明する 機会を設ける必要があると思います。家族の希望に 沿ったケアが出来る様にしたいと思います。</p> <p>(外部評価) 入居時に利用者と家族の意向を確認しながら終末期ケ アを行っている。重度化及び看取りについての指針も 整備され、医療機関との連携体制が構築されている。 利用者や家族の意向を随時確認しながら、安らかな終 末期が迎えられるよう関係者全員で支援に取り組んで いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員全員が救命救急訓練を受けており基本的な実践力は身につけています。急変や事故発生には迅速に対応出来ると思います。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 台風で実際に災害に合った事があり、役場職員、消防、地域の人たちの協力を得ました。又、消防署に依頼して半年に一回、避難訓練を行っています。地域との協力体制も定着してきた様に思います。  (外部評価) 消防署員の指導のもとで全職員で地震や夜間想定避難訓練を実施している。避難訓練と運営推進会議を合わせて行い、地域の方にも避難訓練の様子を見てもらい災害時の協力体制について話し合っている。	備品や居室内の安全性を災害を意識しながら再度確認するよう望みたい。また、事業所の周りの環境等から想定される災害に対応するために、地域の方とのさらなる協力体制の強化に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとり個性があり、何気ない事でも本人に取っては大切な事だと認識し、職員で話し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしたいと思います。油断すると傷つけている事もある様に思います。今一度、確認して対応したい。  (外部評価) 場所や状況に応じた声かけや対応に努め、利用者の人権やプライバシーを尊重している。慣れ合いになってしまわないよう注意しながら日々のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の思いや希望通りにならない場面も時々ありますが表情を読み取り、傾聴する。車椅子で長時間過ごす事が困難な利用者がウトウトされる時がある。声かけをして30分程度、横になって頂いたりしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) テレビを観たり、新聞を読まれたり、歌を歌ったりされ一人ひとりのペースを大切にしながら、「おやつは何が食べたいですか？」等、聞き、出来るだけ楽しく過ごして頂く様に支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴後の衣類を一緒に選んでいます。すぐ同じ服に着替えられる方もおられます。帰宅された時に美容室に行かれる方もおられます。ヘアクリームや乳液など頼まれる事もあります。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 時折「なにが食べたいですか？」等と聞き、好きな物を取り入れたり、出来る人と下拵えを一緒にしたり、食卓を拭いて頂いたり、食器洗いを手伝って頂いています。自分の事として、される力を活かしています。 (外部評価) 事業所の畑で収穫した野菜等、旬の食材を取り入れた献立を職員が手づくりしている。採れた野菜をどのように調理するか、利用者の経験や好みを話題に楽しく会話をしている。味付けも利用者と一緒に作り、器にも工夫をする等、楽しく食事できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分チェック表で水分量を確認しています。栄養のバランスを考え、業務カンファで話し合い、ホームで作っている野菜を多く取り入れる様にして、食生活には気を付けています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導して清潔保持に努めています。自分で出来ない人に対しては、側で支えながら介助しています。口腔ケアチェック表で確認しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) リハパンを使用しておられる利用者は、今のところ2人ですが、汚れに気が付いておられない時があるので、本人のプライドを傷つけない様に時間を見てトイレの声かけをして誘導しています。	
			(外部評価) 利用者の状況に応じてオムツ等を使用しているが、可能な限りトイレで自然に排泄できるように支援している。誘導や介助の際は不快感を与えないように配慮しながら、過度なケアにならないよう支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に合わせて、適当に身体を動かして頂いたり、食物繊維を多く取り入れたり、ストレスが便秘に影響しない様に楽しく、リハビリ体操などを取り入れています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望に応じて、毎日でも入浴する事が出来る。自分で洗えない所は介助して、会話をしながらゆっくり入浴して頂き、気持ちの良い物と分かって頂く様に支援しています。	
			(外部評価) 利用者からの希望があれば、毎日入浴できるよう準備をしている。入浴が苦手な利用者には、声かけのタイミングや対応を工夫して気持ち良く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 長い入居生活の中で、一人ひとりの生活習慣がだいたい出来てきています。室温、布団の調整等に気を付け、気持ち良く眠って頂けるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が把握しています。変化に気が付いた時は、主治医に連絡をして支持を仰ぎ、必要に応じて受診もしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 残存能力を活かし、一人ひとりに合った役割を見つけ、日々楽しく暮らして頂けるように支援しています。気分転換にデイに行ったり、散歩に行かれるか方もおられるので同行しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子で外出が困難な利用者でも、車窓から楽しめるように外出の機会を設けている。家族が見えた時は一緒に買い物やお墓参りなどに出かけられます。毎日、職員と一緒に生ごみを捨てに行かれる方もおられます。	
			(外部評価) 利用者の希望を聞きながら自宅やお墓参りなどの外出を行っている。外出が困難な利用者は事業所の庭で日光浴をしたり、お花見など計画し短時間でも屋外に出ることで気分転換や楽しみになるよう支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族が見えた時にお金を渡されます。本人は大切にされていますが、しまった場所を忘れておられる事もあります。自分勝手に電話をかけられる方には、電話代がいる事を説明して預かったり、外出の時には自分の好きな物を買って満足されています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 時々、手紙を書く様に紙とえんぴつを渡し、一緒に書く様に進めますが、ほとんどの利用者はかかれません。頻繁に電話でのやり取りで済みます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 壁面には季節感を取り入れたり、温度調整をして心地よく過ごして頂いています。暖かい日には、散歩などをして周りの草や花等も摘んだりする事もあります。</p> <p>(外部評価) 高台にあるため、大きな窓からは自然豊かな景色を見渡すことができる。利用者は自然光の入る明るいリビングや、こたつのある畳スペースで、思い思いにゆったりと過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳の上でテレビを観たり、新聞を読まれたり、食堂で家族の写真を眺めたり、一人ひとり、思い思いに過ごされている事は良くありますが、家具等を配置して一人になれる居場所は設けていない。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は、本人が居心地の良い場所であるので、本人の気にいる様にして、使い慣れた物や好みの物はあまり動かさない様にして本人が落ち着いて過ごせるようにしています。毎朝の掃除の時は、声かけをしてゴミと一緒に処分して頂いたり自分で捨てて頂く様にしてます。</p> <p>(外部評価) 入居前の自宅訪問の際に感じとった雰囲気を参考にしながら、利用者の好みに合うよう、居心地よく過ごせる居室づくりをしている。ベッドやタンスが備え付けられ、自宅で使っていた日用品や家族や犬の写真等が飾られている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 個々の出来る事は、洗濯物たたみや干す事などで活かし、日向ぼっこがしたい利用者には、居眠りをされて椅子から落ちない様に、手すりに椅子を寄せて傾かない様にしたり、トイレの目印、行動範囲に物を置かない等、安全確保の環境作りに心がけています。</p>	